



明石海峡の雄大な景色を眺める子どもたち

明石海峡の潮風に揺られ 交流事業・明石海峡クルージングに参加

養父市と明石市の交流協定調印を受けて7月18日・海の日、明石市が実施した「海峡の風プレゼント・明石海峡親子ふれあいクルージング」に養父市内の親子16組44人が参加しました。

養父市を出発した一行は、明石市立天文科学館で施設を見学。その後、明石港からフェリーに乗って約2時間の海峡クルージングを満喫しました。船内では、魚名のビンゴゲームなども楽しみ、親子でふれあう楽しい1日を過ごしました。次回の交流事業は、10月1日に明石市の親子40人を招待し、大屋農村公園で農作物の収穫体験を実施する予定です。

など楽しみ、親子でふれあう楽しい1日を過ごしました。次回の交流事業は、10月1日に明石市の親子40人を招待し、大屋農村公園で農作物の収穫体験を実施する予定です。



自動選果機を使って大きさを選別する組合員

あまくい果実を収穫

夏の味覚「ネクタリン」出荷始まる

養父市の特産品ネクタリンの出荷作業が7月6日、上野のフルーツの里作業場で始まりました。

ネクタリンは桃の一品種で、果実は桃よりやや小さく毛はありません。養父フルーツ生産組合（高階武会長）が平成元年から栽培をはじめ、現在も9戸の農家で栽培されています。

作業場では、組合員が「ミス・リカ」という品種のネクタリンを一つひとつ自分の目で選別。続いて、自動選果機を使ってサイズを分け、いいねいに箱詰めがされました。ネクタリンは、8月上旬までフルーツの里の店頭で販売されたほか、主に贈答品として全国に出荷されているそうです。

高階会長は「やや小ぶりですが、例年に比べ雨が少なかったことから糖度の高いネクタリンができました」と出来栄を話されました。

関西最大規模の「膜ろ過」浄水施設 上網場浄水施設が完成

安全で安定した飲料水の供給を行うことを目的に、平成14年度から建設を進めていた上網場浄水施設が完成し、7月13日に竣工式が行われました。

施設完成にあたって梅谷馨・養父市長は「この施設の完成でより安全で安定した水を供給できるようになりました。また、市民生活の向上と地域の発展に寄与するものと思います」とあいさつしました。

この施設は、10万分の1の穴が開いている特殊な膜に水を通すことで、塩素消毒では殺菌できない微生物・クリプトスポリジウムを取り除く「膜ろ過方式」を採用。この方式の浄水施設としては関西で最大規模となります。同施設で処理された水は、八鹿町中心部などの2千世帯以上に供給。1日最大5千トンの処理能力があり、総事業費は約12億3千万円です。



完成した浄水施設を見学する式典出席者ら